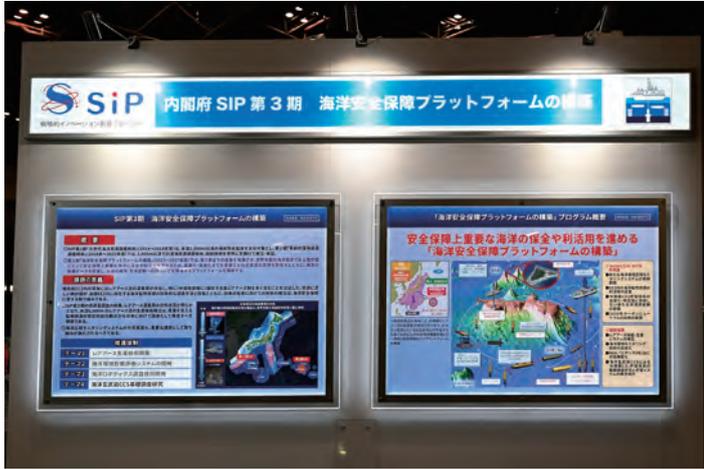




News Letter



Offshore Tech Japan 2025 への出展

2025年1月29日から1月31日の間、東京ビッグサイトにてOffshore Tech Japan 2025(=OTJ 2025)が開催されました。同展は、我が国の海洋資源の利活用と開発促進実現を目指した最新技術の展示会で、SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」(以下、SIP海洋プログラム)としては、昨年に引き続き2回目の出展となりました。

本年は、AUV(=自律型無人探査機)「しんりゅう6000」(模型)や海底観測プラットフォーム「江戸っ子1号 COEDO Petite」に加え、新たに国立研究開発法人国立環境研究所が所有する洋上バイオアッセイとPhyto-Alert(注)ならびに国立研究開発法人海洋研究開発機構(=JAMSTEC)が開発した環境DNA採取装置といった3種類の環境モニタリング機器を展示しました。合わせて、パネル展示や動画上映を行い、これまでの研究活動の成果を幅広く紹介しました。

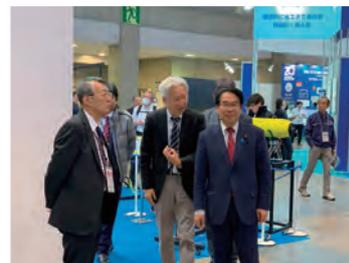
(注) 洋上バイオアッセイ=船上にて、化学物質に対する生物の反応をみることで、海から採取した試料の有害性を評価する手法。

Phyto-Alert=採取した海水中の植物プランクトンを用いたリアルタイム水質監視装置

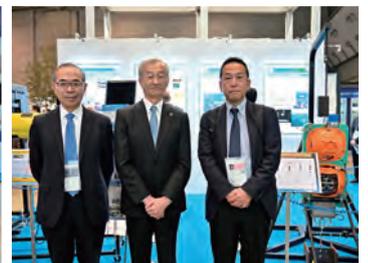
会期初日の1月29日には、衆議院議員の松原 仁先生に、更に1月31日には、自由民主党参議院議員の青山繁晴先生と衆議院議員 自由民主党 海洋総合戦略小委員会事務局長の黄川田仁志先生にもお越しいただきました。三名の国会議員の方々は、昨年11月末に開催されたSIP海洋プログラム2024年度報告会に続いてのご来臨となり、SIP海洋プログラムへの理解をより一層深めていただくことができました。



黄川田議員、青山議員、石井PD



松原議員(右端)
JAMSTEC 大和理事長、東 SPD



経団連海洋開発推進委員会
満岡委員長(中央)

会場ではシンポジウムが開催され、1月29日には、内閣府総合海洋政策推進事務局の金子参事官がご登壇され、「我が国の海洋政策について～海洋ロボティクスの発展に向けた取り組みなど～」と題する基調講演が行われました。基調講演では、第4期海洋基本計画と海洋開発等重点戦略に関するご説明、また、海洋ロボティクスの発展に向けた取り組みとして、AUV利用実証事業の概要とAUV官民プラットフォームの活動概要に関するご紹介、最後に再エネ海域利用法改正法律案の動向についてのご説明がありました。

続いて、会期最終日の1月31日には、SIP海洋プログラムの藤原テーマリーダーと山本テーマリーダーが順次登壇し、藤原テーマリーダーからは「高度海洋環境・状況調査に資するAUV開発～SIPでの開発状況～」と題する講演が、また山本テーマリーダーからは「海洋の持続的利用に求められる環境モニタリング～生物多様性とネイチャーポジティブ～」と題する講演が行われました。講演には多数の視聴者が参加し、活発な質疑応答が行なわれ、出展と合わせSIP海洋プログラムの取り組みについて理解を深めていただく機会となりました。



金子参事官 基調講演

会期中、ブースには自動車、海運、電力、環境関連他、様々な分野の企業、大学、官庁等、1,000人を超える来場者がありました。また、SIP海洋プログラムのブースは、OTJ2025の出展者の中では最もホール入口に近い場所に展示されましたが、ホール入場者数は3日間で20,000人を超えました。今回の出展でも、沢山の皆さまに私達の取り組みについて知って頂くことができました。

以上



藤原テーマリーダー



山本テーマリーダー



環境 DNA 自動採取装置



手前：Phyto Alert
奥：バイオアッセイ

